

目黒区教育長賞

税金は私たちの未来への投資

目黒区立目黒南中学校 三年

小山 葵

「え、税込になるとこんなに高いの」

私は思わず声に出しました。税抜き表示の商品を買おうとした時、消費税がつくと途端に損した気分になることがあります。だから、私は「税金って嫌だな」と思っていました。

けれど、母とニュースを見ていた時、税金の使い道について話す機会がありました。そこで消費税が高齢者の介護や子育て支援医療や教育などに使われていることを知りました。母は「子ども医療費の補助も税金があるからできることだよ」と教えてくれました。私はハッとしました。例えば私が風邪をひいて病院に行ったとき、診察代はかかりませんでした。私の住んでいる東京都は高校生まで医療費が無料です。それは自治体の制度があるからです。それを支えているのも税金だと知りました。

このような制度があるのは、世界的にみても珍しいことだと知り、さらに驚きました。実際、アメリカでは医療費がとても高く、保険に入っていないと病院にかかるだけで何万円もかかることがあります。イギリスやフランスでは、医療費はほとんど無料ですが、日本よりも高い税率になっています。日本の税制度は、医療

費や教育費が比較的抑えられており、多くの人が安心して暮らせるように工夫されています。

一方で、日本の税には課題もあると感じました。例えば、少子高齢化が進む中で、現役世代の税負担が増えていくことへの不安があります。また、大学の学費の高さや、子育て家庭への支援の少なさが問題になっています。それが少子化にもつながっていると思います。

北欧の国々では税金は高いものの、教育費や医療費が完全に無料で、子育て支援もとても手厚いと聞きます。税金を「負担」と感じさせず、「信頼できる投資」として受け入れている点は、日本も見習うべきだと思います。

それでも、日本は誰もが最低限の生活を安心して送れるよう尽くしてくれていると思います。街の道路が整っていること、学校で学べること、夜でも明るい道を歩けること。そうした当たり前の毎日は、税金によって支えられているのだと実感しました。

税金は「取られるもの」ではなく、「みんなで支え合う仕組み」です。そして、子どもである私も、その恩恵を日々受けていることに気づきました。

これからも、ただ税金を高い、もったいないと思うのではなく、それがどう使われているかを知り、関心を持ち続けたいと思います。そして将来、自分が働いて税金を納める立場になったとき、「これはきつと誰かの役に立っている」と誇りをもてる大人になりたいです。